

震災から5年をふりかえり教訓を学び取る特別イベント 「Lesson#3.11 5年前、そして5年間に起きたこと」

2016年3月5日(土)～3月28日(月) 開催

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、2016年3月5日(土)～3月28日(月)の期間、「Lesson#3.11 5年前、そして5年間に起きたこと」と題して特別イベントを開催します。

2011年3月に起きた東日本大震災とその後の原発事故は、各地に甚大な被害を引き起こし、5年が経過しようとする現在もなお各所に大きな影響を与えています。震災当時、日本科学未来館では、地震、津波、原発事故と放射性物質飛散、放射線の健康への影響、といったテーマについて、「Case#3.11」と題した特設ウェブサイトを立ち上げ、情報発信活動を展開しました。そして、震災から5年の契機となる本年、改めてこれらを科学的に分析し、教訓を学び取り、未来を考えていくための取り組みを行います。

本イベントでは、パネル展示、ワークショップおよびミニトーク、研究者・専門家によるトークイベントを実施し、科学的なデータをもとに、問題の捉え方や未来社会の在り方を、来館者とともに様々な視点から考えていきます。

ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

■開催概要■

名称 「Lesson#3.11 5年前、そして5年間に起きたこと」
会期 2016年3月5日(土)～3月28日(月) (ただし、火曜日は休館)
会場 1階コミュニケーションロビー、3階実験工房など
主催 日本科学未来館

[CONTENTS]

1. パネル展示「5年前、そして5年間に起きたこと」

5年前、そして5年間に起きた事象と問題を5つの章立てで紹介し、その教訓を学び取ります。また、原発事故を語る貴重な実物資料として、水素爆発の様子を捉えた映像と情報カメラの実物を展示します。

2. ワークショップ&ミニトーク

放射線の測定方法、低線量放射線の健康への影響、エネルギー問題など、多くの人が疑問に感じることや不安に思っているテーマについて、日本科学未来館の科学コミュニケーターがワークショップとミニトークを実施します。

3. サイエнтиスト・トーク「未知の災害ダメージを『想定外』と言わないために」

災害ダメージを「想定外」と言わないためにはどうすればよいのか。リスクコミュニケーションの専門家とともに、東日本大震災の教訓を再確認し、現代の社会に潜む脆弱性を考えます。

4. トークイベント「納得できてる？低線量被ばくの影響 -科学でしめす、社会が選ぶ-」

臨床医と疫学の研究者を講師に迎え、低線量での健康への影響について考えるとともに、個人・社会がどう判断し行動しなくてはべきかを議論します。

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

1. パネル展示「5年前、そして5年間に起きたこと」

三陸沖合で起こったマグニチュード9.0の巨大地震は、揺れと津波で多くの人命を奪いました。続く福島第一原子力発電所の事故は、放射線による被ばくというリスクの捉え方や、エネルギーの生産・受給方法の問題を、改めて社会に問うことになりました。5年前、そして5年間に起きたこれらの事象と問題を5つの章立てで紹介し、その教訓を学び取ります。

1000年に一度の災害と原発事故

地震発生と各地の被害状況、原発事故によって起こった放射性物質の飛散とその後5年間での推移について、観測データなどをもとに時系列でふりかえります。また、事故を物語る貴重な実物資料として、福島第一原子力発電所の水素爆発の様子を捉えた映像と情報カメラの実物を展示します。

低線量被ばくの健康影響

放射線を浴びると人体では何が起こるのか、100mSv以下の低線量被ばくの場合のリスク、福島の現状などについて、科学的なデータをもとに整理し紹介します。

エネルギーの未来

東日本大震災を契機に電力システム改革がはじまりました。改革によって何がどう変わるのか、再生可能エネルギーへのシフトは可能なのか、国や地域、個人の選択を考えます。

福島の今

帰還困難区域、避難指示解除区域、福島の中でも汚染されていない地域、それぞれを取材し制作されたドキュメント映像を上映します。

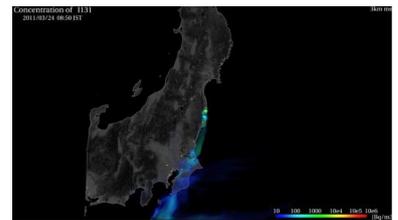
次のハザードに備える

地震や火山が多い日本列島に生きる私たち。東日本大震災からの教訓を読みとって、災害が起こる仕組みを理解することが次の災害に備える一歩になります。

- 期間：2016年3月5日(土)～28日(月)
- 場所：1階コミュニケーションロビー
- 料金：無料



1号機の水素爆発の様子
(提供: 福島中央テレビ・NNN)



放射性セシウム137の濃度変化シミュレーション
(提供: 国立研究開発法人海洋研究開発機構)

2. ワークショップ&ミニトーク

放射線のリスクやエネルギー問題などをテーマに、日本科学未来館の科学コミュニケーターがワークショップやミニトークを実施します。

ワークショップ「どこにある？放射線を測ってみよう」

- 日時：会期中の土日祝日 14:30～14:50
- 場所：1階コミュニケーションロビー
- 定員：各回15名程度
- 参加方法：当日受付(先着順)
- 参加費：無料
- 対象：どなたでも参加できますが、内容は小学校高学年以上向けです。

ワークショップ「エネルギー、わたしの選択」

- 日時：会期中の土日祝日 15:00～15:20
- 場所：1階コミュニケーションロビー
- 定員：各回15名程度
- 参加方法：当日受付(先着順)
- 参加費：無料
- 対象：どなたでも参加できますが、内容は小学校高学年以上向けです。

ミニトーク「5年前、そして5年間に起きたこと」

- 日時：会期中毎日 13:30～13:45
- 場所：1階コミュニケーションロビー
- 定員：各回20名程度
- 参加方法：当日受付(先着順)
- 参加費：無料
- 対象：どなたでも参加できますが、内容は小学校高学年以上向けです。
- テーマ：「放射線って何だろう？～原発事故と福島の現在～」、「放射線をどのくらい浴びると危ないの？～低線量被ばくと健康影響」、「エネルギー、わたしの選択」、ほか

3. サイエントリストトーク「未知の災害ダメージを『想定外』と言わないために」

災害によって私たちが受けるダメージは、社会システムによって大きく変わってきます。科学技術の発展により情報通信や交通手段、物流などが複雑化した現代社会。歴史的には経験があり「知っている」つもりの災害や自然現象が、全く新たな被害や混乱を招くことも考えられます。未知の災害ダメージを「想定外」と言わないために、東日本大震災の教訓を再確認し、現代の社会に潜む脆弱性を見つめます。簡単なワークを取り入れたトークのほか、制作途中の展示を紹介し参加者の視点を展示に反映させる試みも行います。

- 日時：2016年3月6日(日)14:30～16:30
- 場所：3階実験工房および5階「100億人でサバイバル(制作中)」
- 講師：岸本充生氏(東京大学公共政策大学院 政策ビジョン研究センター 特任教授)

- 参加方法：事前申込不要。直接会場にお越しください。
 - 参加費：日本科学未来館の入館料のみ(大人620円、18歳以下210円)
 - 対象：どなたでも参加できますが、内容は中学生以上向けです。
 - 定員：40名
- ※本イベントは、4月20日に公開する新展示「100億人でサバイバル」のプレイベントとして実施します。



岸本充生 氏



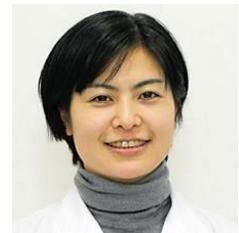
100億人でサバイバル(イメージ図)

4. トークイベント「納得できてる？低線量被ばくの影響 —科学でしめす、社会が選ぶ—」

原発事故により放射性物質が飛散し、福島では多くの市民が放射線被ばくするという事態にさらされました。現在、県民の被ばく状況や健康状態を把握するための調査が行われていますが、100mSv以下の低線量被ばくにどの程度のリスクがあるのか、様々な議論が続いています。一方、避難生活によるストレスや運動不足などがもたらす健康の悪化も問題になっており、喫煙や生活環境等、さまざまな社会的要因からリスクを相対化し、リスクを「賢く」避けることが求められています。

本イベントでは、福島県南相馬市の病院で臨床医として勤務する越智小枝氏と疫学の研究者である津田敏秀氏のお二人を講師に迎えます。そして、低線量での健康影響に関する様々な研究や福島県民健康調査によるデータの読み解き方を見ていきます。その上で、私たちはリスクとどのようにつき合うべきか、リスクを減らす社会を作るために何をしなければならないのかを考えます。

- 日時：2016年3月12日(土)14:00～16:00
- 場所：7階会議室3
- 講師：越智小枝氏(相馬中央病院 内科診療科長)、津田敏秀氏(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)
- 参加方法：事前申込不要。当日、会場入り口で12時より整理券を配布します。
- 参加費：無料
- 対象：どなたでも参加できますが、内容は中学生以上向けです。
- 定員：約80名



越智小枝 氏



津田敏秀 氏